

ポルトガル月報

2019年5月

(本月報は報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

【主要ニュース】

【内政】 ★教師の昇級年数の回復をめぐる政治対立／★欧州議会選挙結果

【外交】 ★マカオ特別行政区長官のポルトガル訪問／★コスタ首相が非公式EU首脳夕食会に出席

【経済】 ★2019年第1四半期失業率と実質GDP成長率／★ポルトガル政府、「パンダ債」を発行

内政

★教師の昇級年数の回復をめぐる政治対立

5月2日、共和国議会教育特別委員会において、政府が3月7日に閣議決定した、経済危機の下で凍結されていた教員の昇級年数の回復を2年9ヶ月18日と定める政令の改正案の投票が行われた。教員組合側が主張する9年4ヶ月2日の回復の是非が問われたところ、最大野党社会民主党（PSD）及び民衆党（CDS）が、組合側の主張を支持してきた左派ポルトガル共産党（PCP）及び左翼連合（BE）の立場に賛同したことにより、同改正案は賛成多数で可決された。

3日、コスタ首相は国民に対し、かかる改正案が本会議で可決される場合には、政府の財政健全化の取組及び国際社会におけるポルトガルの信用が失われるとして、辞任する意向を示した。これを受け、PSD及びCDSは改正案への賛成を撤回することとなり、結局、5月10日の本会議ではPS、PSD及びCDSの反対多数で否決された。

★欧州議会選挙結果

5月26日、当国で実施された欧州議会選挙において、与党社会党（PS）が得票率33.41%（9議席）で、最大野党の社会民主党（PSD）の得票率21.91%（6議席）を大きく上回った。政府と閣外協力関係にある左翼連合（BE）は得票率9.82%（2議席）で前回より2倍以上に得票を伸ばして議席を1つ増やした一方、統一民主連合（ポルトガル共産党・緑の党）（C

DU）は得票率6.90%（2議席）で逆に投票を半分に落とし、1議席を失う結果となった。また、前回の選挙でPSDと連合を組んだ民衆党（CDS）は得票率6.19%で1議席を維持し、現在ポルトガル議会では1議席の人と動物と自然の党（PAN）は5.08%の得票率（1議席）で初当選した。

選挙結果の概要は以下のとおり（欧州議会におけるポルトガルへの配分議席は21席）。

政党	得票率 (%)	獲得議席
社会党 (PS)	33.41%	9 (+1)
社会民主党 (PSD)	21.91%	6 (0)
左翼連合 (BE)	9.82%	2 (+1)
統一民主連合 (CDU)	6.90%	2 (-1)
民衆党 (CDS)	6.19%	1 (0)
人と動物と自然の党 (PAN)	5.08%	1

(注) 獲得議席の () は前回 (2014年) の欧州議会選挙時との増減。

●アクシマージュ社の世論調査—5月

5月27日、ジョルナウ・デ・ノティシアス紙は10月の総選挙に関するアクシマージュ社の世論調査結果を発表した。

政党支持率は、与党・社会党（PS）が36.5%、最大野党・社会民主党（PSD）が25.7%、左翼連合（BE）が9.1%、統一民主連合（ポルトガル共産党・緑の党）（CDU）が7.3%、民衆党（CD

S)が6.9%、人と動物と自然の党(PAN)が1.5%、アリアンサが1.3%となった。

■調査期間：5月16～20日、対象者：ポルトガルの選挙人名簿において固定電話番号又は携帯電話番号を登録している有権者622人、調査方式：層化無作為2段抽出、回答率：73.5%、統計上の誤差：3.80%

■PS=社会党、PSD=社会民主党、CDU=統一民主連合(ポルトガル共産党・緑の党)、CDS=民衆党、BE=左翼連合、PAN=人と動物と自然の党、ALI=アリアンサ

外交

●コスタ首相が韓国のイ・ナギョン首相と会談

5月3日、コスタ首相は、ポルトガルを訪問した韓国のイ・ナギョン首相と会談した。会談後、コスタ首相は、ツイッターにおいて、「イ・ナギョン首相と自動車産業の投資の強化並びに宇宙、再生可能エネルギー、ナノテクノロジー、海洋経済及びeガバメント分野での協力に関する対話を開始した」と述べた。

●サントス・シルヴァ外相が第3回コンタクトグループ会合に参加

5月6～7日、サントス・シルヴァ外相は、ベネズエラ情勢を巡る「国際コンタクトグループ」の第3回閣僚会合に出席するため、コスタリカを訪問した。

●レベロ・デ・ソウザ大統領のイタリア訪問

5月7日、レベロ・デ・ソウザ大統領は、第13回COTECヨーロッパ・シンポジウムに出席するため、イタリアのナポリ市を訪問した。同シンポジウムでは、「行政4.0～デジタル世界のための行政を再考する」をテーマとした円卓会議が開催された他、レベロ・デ・ソウザ大統領、マッタレラ・イタリア大統領及びフェリペ6世スペイン国王による閉会のスピーチが行われた。

COTECヨーロッパ会合は、イタリア、スペイン及びポルトガルのイノベーション・ビジネス協会(COTEC)が共催するもので、2005年より毎年それぞれの国で交互に開催されている。

●コスタ首相が非公式欧州理事会に出席

5月9日、コスタ首相は、ルーマニアのシビウ市で開催された非公式欧州理事会に出席し、2019～2024年のEUの次期戦略的課題について討議した。

★マカオ特別行政区長官のポルトガル訪問

5月12～18日の日程で、マカオ特別行政区の崔世安(Chui Sai On)行政長官がポルトガルを公式訪問した。13日、同長官は、レベロ・デ・ソウザ大統領を表敬訪問し、14日には、コスタ首相を表敬訪問した。15日には、崔世安長官及びサントス・シルヴァ外務大臣が委員長を務める第6回ポルトガル・マカオ合同委員会が開催された。同委員会後、犯罪者の引き渡しに関する合意文書及び高等教育の証書の認定に関する覚書が署名された。また、14日には、メンデス・ゴディーニョ観光担当副大臣との間で、エストリル地区にマカオの旅遊学院の支部を設立する旨の合意文書に署名した。

●サントス・シルヴァ外相がEU外務理事会に出席

5月13～14日、サントス・シルヴァ外相は、ブリュッセルで開催されたEU外務理事会に出席した。13日のEU外務理事会では、ベネズエラ、西バルカン、スーダン、アルジェリア、リビア及びサヘル情勢につき議論がされた。14日のEU外務理事会(防衛)(ゴメス・クラヴィーニョ国防相同席)では、サヘル情勢、恒常的構造防衛協力(PESCO)、EU・NATO間協力等に関する議論がされた。

●サントス・シルヴァ外相のフランス訪問

5月15日、サントス・シルヴァ外相は、経済外交の一環としてフランスを訪問し(ブリリヤンテ・ディアス国際化担当副大臣同行)、ポルトガルにおいて投資を行っている又は興味を示している約40名のフランス人投資家と会合した。

●コスタ首相のフランス訪問

5月20日、コスタ首相は、フランスを訪問した。同日午前、コスタ首相は、パリのBHVマリ・ショッピング・センターにて7週間にわたり開催される「Sous le Soleil Du Portugal(ポルトガルの太陽の下で)」というポルトガル製品をパリで紹介するイニシアティブを視察した。同日午後、コスタ首相は、マクロン・フラン

ス大統領と会談し、会談後、ツイッターにおいて、「我々は、欧州プロジェクトに関し、欧州が結果を出し、不均等及びテロの脅威から市民を守り、そしてデジタル社会へのバランスのとれた移行を保証するという将来展望を共有している」と述べた。

●バルガス・ドミニカ外相のポルトガル訪問

5月20日、バルガス・ドミニカ外相がポルトガルを訪問し、サントス・シルヴァ外相と二国間関係、イベロアメリカ・サミット、並びにニカラグア及びベネズエラ情勢につき会談した。

●サントス・シルヴァ外相のドイツ訪問

5月22日、サントス・シルヴァ外相は、ドイツ・ベルリンを訪問し、マース・ドイツ外相及びツェラル・スロベニア外相と会談した。ドイツ、ポルトガル及びスロベニアは2020年7月～2021年12月にかけてそれぞれEUの議長国を務めることとなっており、今次訪問では、同三カ国による議長国としての共通優先課題に関する議論が行われた。

●ブロック・オランダ外相のポルトガル訪問

5月27日、ブロック・オランダ外相がポルトガルを訪問し、サントス・シルヴァ外相と二国間関係、経済通貨同盟、欧州議会選挙、戦略アジェンダ（移民難民、安全保障、気候変動）等の他、アフリカ、ベネズエラ及び中国情勢、中東和平プロセス及び2020年国連海洋会議について会談した。

★コスタ首相が非公式EU首脳夕食会に出席

5月28日、コスタ首相は、ブリュッセルで開催された非公式EU首脳夕食会に出席した。同夕食会では、欧州議会選挙の結果及びEU諸機関の主要人事等について協議が行われた。同夕食会后、コスタ首相は、今次欧州議会選挙の結果により、同議会における主要な会派が増えたことを踏まえ、「欧州理事会又は欧州議会において安定多数を保証するための広範な政治的合意が必要である」と述べ、共通の中期戦略に基づき、EUの4つの主要ポスト（欧州理事会議長、EU外交・安全保障政策担当上級代表、欧州委員会委員長、欧州議会議長）を決定すべきであると述べた。

●サントス・シルヴァ外相のコートジボワール訪問

5月28～29日、サントス・シルヴァ外相は、コートジボワールを訪問した（ブリリヤンテ・ディアス国際化担当副大臣同行）。28日、同外相は、アモン＝タノール・コートジボワール外相と会談し、ポルトガル・コートジボワール合同委員会の議長を務めた後、バカヨコ国防相と会談した他、ダンカン副大統領を表敬訪問した。29日、サントス・シルヴァ外相は、ポルトガル企業（モタ・エンジル社及フェルピント社）関連施設を視察した他、アフリカ開発銀行にて欧州とアフリカの関係について講演した。

●ゴメス・クラヴィーニョ国防大臣のアンゴラ訪問

5月28～30日、ゴメス・クラヴィーニョ国防大臣はアンゴラを訪問した。28日、同大臣は、アンゴラのセケイラ国防大臣及びドス・サントス元兵士退役軍人大臣とそれぞれ会談した後、士官学校及び海軍兵学校を訪問した。29日は、ルアンダ郊外にて、アンゴラ特殊部隊学校及び旅団を視察した他、ギニア湾委員会を訪問した。30日は、第19回CPLP国防大臣会合に出席した。

●コスタ首相が「カール大帝賞」授賞式に出席

5月30日、コスタ首相は、ドイツのアーヘン市で開催された「カール大帝賞」授賞式に出席した。今年の「カール大帝賞」はグテーレス国連事務総長に授与され、ポルトガル人の同賞受賞は初めて。

カール大帝賞は、ドイツのアーヘン市が1950年より欧州統合又は欧州諸国間の協力に向けて優れた業績を挙げた著名人に授賞している賞。

●レベロ・デ・ソウザ大統領のサントメ・プリンシペ訪問

5月28～29日、レベロ・デ・ソウザ大統領は、サントメ・プリンシペを訪問した。28日、同大統領は、カルヴァリョ・サントメ・プリンシペ大統領と会談した他、大統領官邸で開催されたレセプションに参加した。29日は、カルヴァリョ大統領と共にイギリス人の天文学者、アーサー・エディントン氏がサントメ・プリンシペにて相対性理論を証明した実験の100周年記念式典に出席した。

経済

●欧州委員会による2019年春期経済見通し

5月7日、欧州委員会は、2019年春期経済見通しを発表したところ、ポルトガルにおける本年の実質GDP成長率1.7%（前回2月同様）、失業率6.2%（同6.3%）、インフレ率1.1%（同1.5%）、経常収支（対GDP比）▲1.0%（同0.1%）、財政赤字（対GDP比）▲0.4%（同▲0.6%）と公表した。

★2019年第1四半期失業率と実質GDP成長率

5月8日、ポルトガル国立統計院（INE）は、2019年第1四半期（1-3）の失業率が6.8%（前期比0.1ポイント増；前年同期比1.1ポイント減）と発表した。失業者数は35万3,600人（前期比1.3%増；前年同期比13.8%減）で、このうち、若年層失業率（15～24歳）は17.6%（前期比2.3ポイント減；前年同期比4.3ポイント減）の6万4,600人。男女別失業率では、男性が6.0%、女性が7.6%。また、地域別失業率では、アルガルヴェ地域（9.4%）、アソーレス自治州（8.4%）、リスボン首都圏（7.8%）及びマデイラ自治州（7.0%）がポルトガル全土平均を上回り、北部地域では平均（6.8%）を記録し、アレンテージョ地域（6.3%）及び中部地域（4.9%）のみが平均を下回った。

また、INEは31日、第1四半期（1-3）の実質GDP成長率を前期比0.5%増、前年同期比1.8%増と発表した。GDP成長率のうち、総固定資本形成に関連する投資が急速に伸びたことにより、内需の寄与度が前期比4.8%増加した。他方、財貨・サービスの純輸出は物品・サービスの輸入が輸出より急速に増加したため、寄与度は▲3.1となった。

●長期国債の入札

5月8日、ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、10年物長期国債を8億ユーロ（利回りは過去最低の1.059%）及び15年物長期国債を4億5,000万ユーロ（利回りは1.563%）発行した。落札額は、10年物長期国債が15億200万ユーロ（応札倍率1.88倍）、15年物長期国債が8億5,

500万ユーロ（応札倍率1.90倍）となった。

●短期国債の入札

5月15日、ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、6か月物短期国債を5億ユーロ（平均利回りは-0.396%）及び1年短期国債を10億ユーロ（平均利回り-0.370%）発行した。落札額は、6か月短期国債が13億1,100万ユーロ（応札倍率2.62倍）、1年短期国債が22億8,500万ユーロ（応札倍率2.29倍）となった。

●「オーシャンズ・ミーティング2019」の開催

5月16～17日、リスボンにて、ポルトガル政府主催の海洋に関する国際会議「オーシャンズ・ミーティング2019」が開催された。16日は、マゼランの世界周航500周年に関する展示及びオーシャンズ・ミーティング2019の開会式が行われ、ヴィトリノ海洋大臣及びヴェッラ欧州委員（環境・海事・漁業担当）をはじめ、64カ国からの代表及び国際海事機関（IMO）の代表等が出席した。同日午後には、「海洋ガバナンスとデータの共有」及び「イノベーション、ブルー・スタートアップと資金調達」と題したパネル・ディスカッションが行われた。17日は、「小島及び発展途上国における海洋ガバナンスの課題」及び「海洋スマート・ガバナンス」と題したパネル・ディスカッションが行われた。

今回のオーシャンズ・ミーティング2019に並行して、5月16～17日、欧州委員会による「欧州海事の日（European Maritime Day）リスボン2019」が開催された。

●IMFが対ポルトガル4条協議終了にあたっての声明を発表

5月6日～17日の日程でIMF代表団がポルトガルを訪問し、IMFは、17日に「2019年対ポルトガル4条協議終了にあたっての声明」を発表し、ポルトガルの景気拡大が6年目に入り、失業率が危機前の水準を下回り、民間及び公的機関のレバレッジ比率が改善されたとした。2019年のGDP成長率は1.7%に留まるものの、中期成長ポテンシャル（1.4%）を上回っているとした。他方、ポルトガルは、

外部環境からの影響を受けやすく、特に欧州の経済低迷、保護主義の高まり及び英国の合意なきEU離脱による主に観光分野への影響に関する懸念を示した。また、国内において、各種団体が政府に対し歳出増加を伴う要求を強めているが、ポルトガルは、高額な公的債務及び民間債務を継続的に削減しつつ、労働生産性の向上、投資及び貯蓄を促進する強固な国内政策を実施すべきであると指摘した。

【IMFの対ポルトガル・マクロ経済指標の最新予測】

単位 (%)	2019年	2020年
実質GDP成長率	1.7	1.5
個人消費	1.9	1.5
公的支出	1.6	1.3
総固定資本形成	6.2	4.2
輸出	4.1	4.1
輸入	5.2	4.7
失業率	6.2	5.7
インフレ率	1.1	1.5
財政収支 (対GDP比)	▲0.2	0.0
基礎的財政収支 (同)	3.1	3.3
一般政府債務 (同)	119.3	117.0
経常収支 (同)	▲0.3	▲0.4

●長期国債の債務交換

5月22日、ポルトガル国庫公債管理庁(IGCP)は、債務交換(exchange offer)を実施し、2021年に期限を迎える7億4,200万ユーロの国債を3.85%の金利で購入し、2026年に期限を迎える同額の国債を2.875%の金利で売却した。

●フィッチ社、ポルトガル国債の格付け見通しを引き上げ

5月24日、格付会社フィッチ社はポルトガル国債の信用格付を投資適格級の「BBB」に維持しつつ、格付見通しを「安定的」から「ポジティブ」に引き上げた。同社は、近年のポルトガルの公的債務残高対GDP比が2014年のピーク時の130.6%から2018年末の121.5%まで削減されたことを評価する一方で、その他の「BBB」国と比べると、ポルトガルの公的債務残高は未だ高額であることを指摘した。また、同社は、

ユーロ圏の経済低迷の影響により、2019年及び2020年、ポルトガルは貿易赤字を記録する見込みであるとした。

★ポルトガル政府、「パンダ債」を発行

5月30日、ポルトガル国庫公債管理庁(IGCP)は、20億人民元(2億6,000万ユーロ)、年限3年の人民元建て債券(パンダ債)(利回りは4.09%)を発行し、応札倍率は3.165倍となった。パンダ債発行の引受主幹事は中国銀行及びHSBC銀行が努め、ポルトガル貯蓄銀行(CGD)傘下のCaixaBI投資銀行は財務アドバイザーとして参加した。ポルトガルはユーロ圏の中で初めてパンダ債を発行した国となり、EU加盟国の中ではポーランド、ハンガリーに次ぐ3番目の国となった。

(了)